

ニュースター 第10号
平成6年4月21日

日本精神保健看護学会

The Japan Academy of Psychiatric and Mental Health Nursing

事務局：
〒150 渋谷区広尾4-1-3
日本赤十字看護大学内
(理事長：稲岡文昭)
TEL：03-3409-0875
FAX：03-3409-0589

保健士国家試験に臨んで

北里大学 小林 信

「先生、福祉に関係する6つの法律言える？」と学生に聞かれ、私は3つしか答えられなかった。電車の中でアンチョコを広げている姿を見られるのも何んとか気恥ずかしかったので、いつもの私にしては随分と余裕をもって出かけた。にもかかわらず、朝の混雑の激しい駅でうちの学生に出会ってしまった時の最初の一言である。人前で先生と呼ばれることに慣れていないことも手伝って、普段「君たち、そんな事も知らないの」と、ほんの少し学生より多い経験から取ってしまった態度を思い起こして、反省するとともにバツの悪い思いをした。先日の3月7日、保健士の国家試験へ臨んだ日の事である。

皆さんもご存じのとおり、今年から男性にも保健婦(士)への門戸が開かれた。現時点では私にとって是非必要な資格ではないが、それでもひとつの制度が変わる歴史的事実に立ち会えたことは感慨深い。この道を開くのに努力なされた方々への敬意を込めて、蓋を開けたら受験者が数人しかいなかったなどということがないように、私も受験することにした。但し、「参加することに意義があるのだよ」という合理化でガチガチに防衛することも忘れなかったのは言うまでもない。

受験者については私の取り越し苦労だったようである。少なくとも東京会場だけでも40-50人ぐらいの男性がいたし、笑顔がどこもなく引きつってはいたものの同窓会さながら旧知の看護師たちの多くとも再会した。今すぐにはではないにせよ、将来この新しい分野で活躍する男性がこの中から登場するであろうという予感も感じられたし、自分も受験してよかったと思った。

さて、自分自身については正直に言って「五分五分」という感想である。概に保健婦の資格をもっている周りの者に「国民衛生の動向を覚えれば大丈夫」と言われ、1週間前に買ったその本の厚さに愕然とし、公衆衛生、疫学という語句を前にして10年前の自分の学生時代の不勉強さとブランクを呪った事を思えばむしろ善戦したといってよい。昼の休憩時間の便所で「どう？」と尋ねた後輩が、深いため息とともに首を横にゆっくり振ったのが印象的だった。別れ際に挨拶をした先輩に、思わず「来年もまたお会いしましょう」と言いたくなり、その人の眼にも同じ色が浮かんでいたのも見逃さなかった。

試験が終って少し経った今、受験という行為そのものに社会的な目的があったのは半ば本当だが、果して合格したらどうするかも第1回の受験者としては重要な事なのだ、という思いが頭に浮かんでいる。残念ながら未だ具体的な利用法は思いつかないので、学会員の方々にもこの場を借りて良きアドバイスをお願いしたいと思う。ちなみに、今後のスローガンが「継続は力なり」にならないよう、4月20日の結果を待つばかりの私は、概に6つの法律を1つしか言えない。

第4回 日本精神保健看護学会 総会・学術集会
” 精神看護と患者の意思決定 ”

○日時： 1994年7月2日（土）、3日（日）

○場所： 日本赤十字看護大学

○プログラム：

【第1日：7月2日（土）】

13:00-13:30 総会

＜学術集会＞

13:35-13:40 オリエンテーション

13:40-15:10 講演：「精神病者の自己決定なしで人権擁護は存在しない」

講師：小林信子（東京精神医療人権センター）

15:20-17:30 ワークショップ

〔テーマ〕

〔担当責任者〕

1)精神力動概念をもちいた事例検討

粕田孝行（長谷川病院）

2)体験グループ

武井麻子（日本赤十字看護大学）

3)リエゾン精神看護・学習会

川名典子（聖路加国際病院）

4)地域リハビリテーション看護

田中美恵子（聖路加看護大学博士課程）

5)「再構成」の方法

池田明子（北里大学）

6)臨床における看護研究の糸口

稲岡文昭（日本赤十字看護大学）

18:00-19:20 懇親会

【第2日：7月3日（日）】

9:30-12:00 一般演題発表（一題発表15分、討議15分）

第1群：事例・実践報告に関するもの

1. 青年期入院患者の小グループの試み

〔座長〕 稲岡文昭（日本赤十字看護大学）

2. 病棟喫茶の3年間を振り返って

荻野雅（日本赤十字看護大学）他

3. デイホスピタル導入プロセスにおける看護判断の
明確化

佐野智子他（北里大学東病院）

丸関知美（千葉県精神科医療センター）

4. 境界例児童の枠組み内在化の過程

国生拓子（東京医科歯科大学）

5. 一般病棟に於ける境界性人格障害患者へのチーム
アプローチについて

近藤百合子他（北里大学東病院）

第2群：臨床における調査・研究に関するもの

〔座長〕 田中美恵子（聖路加看護大学博士課程）

1. 自殺傾向のある精神疾患患者に対する精神科看護
者のかかわり

佐伯恵子（大阪府立看護短大）

2. 保護室への入室体験を通して患者が抱いた気持ち
について考える

篠原睦美他（駒ヶ根病院）

- 3.精神科外来待合室における初診患者の診察前の言動の実態と看護ケアの手がかり
- 4.再入院を防ぐ生活要因を探る
- 5.病棟看護婦の精神科訪問看護活動についての看護内容と意識

加藤秀子 (駒ヶ根病院)

山下えみ子他 (北里大学東病院)

武藤恭子 (日本赤十字看護大学学生) 他

第3群：看護教育に関するもの

[座長] 塚田縫子 (東邦大学医療短期大学)

- 1.精神看護学実習における看護の役割機能に関する看護学生の学び

金子道子 (山梨県厚生部) 他

- 2.精神看護学実習における学生の困ったことへの対処行動

鈴木ミツ子 (自治医科大学看護短大) 他

- 3.看護教育におけるグループワークに関する実態調査

山村礎 (東京都精神医学総合研究所) 他

- 4.グループワークを用いた精神看護における現任教育訓練の方法論に関する研究

宮本真巳 (東京都精神医学総合研究所) 他

第4群：精神保健に関するもの

[座長] 横田碧 (千葉大学)

- 1.N看護大学生の学生生活意欲についての内的体験

田上美千佳 (日本赤十字看護大学)

- 2.エゴグラムによる准看護生徒の自我状態の観察

井上正子 (石川県立総合看護専門学校)

- 3.看護学生の月経リズムと気分ならびに自覚症状およびストレス要因との関連性について

鬼村和子 (九大医療技術短大) 他

- 4.核家族の初産婦の出産後の心の健康の継時的変化

萱間真美 (聖路加看護大学) 他

- 5.定期健康診断時間診における精神心理面からの問題把握について

馬場芳子他 (NTT 関東健康管理所横浜センタ)

13:30-16:00 シンポジウム：＜患者の意思決定を支える看護とは－患者の自立・看護の自立を考える＞

シンポジスト：急性期ケアの場から 伊藤文 (千葉県精神科医療センター)

慢性期ケアの場から 宮崎弘光 (駒木野病院)

中間施設の場から 小松博子 (地域ケア福祉センター)

在宅ケアの場から 小林政子 (砧保健所)

司会：川野雅資 (東京女子医科大学附属看護短期大学)

岡谷恵子

新企画ワークショップ：「臨床における看護研究の糸口」のご案内

”研究とは分からないことを分る知的・創造的活動である”とされています。精神保健看護領域では、まさに、分からないことだらけではないでしょうか。臨床で日々、こころを病んでいる人達やこころが傷ついている人達にケアしていますと、”どうして彼らはこのような行動を取るんだろうか？逆に、どうしてこのような行動をとらないのだろうか？実に、不思議だ。どのように彼らにアプローチをすればよいのだろうか、全く分からない。”など頭をひねることで一杯ではないでしょうか。

看護者であるかぎり、上司から命令されなくとも、いつか研究の一つや二つはやってみたいというひそかな思いがないでしょうか。ところがそうは思っても、この領域の未知の現象だけは目に見えないだけによけい頭が痛い。

そこで本ワークショップでは、以上のような疑問を研究の素材にまでもっていく過程について、臨床に働く仲間同士が具体的な事象をもとに自由に語り合い、刺激し合い、叡智を出し合って、参加した一人ひとりが何らかの示唆が得られるよう進行してみたいと思っています。

興味・関心ある方、どうぞ肩をはらないで気楽に参加して下さい。

(稲岡)

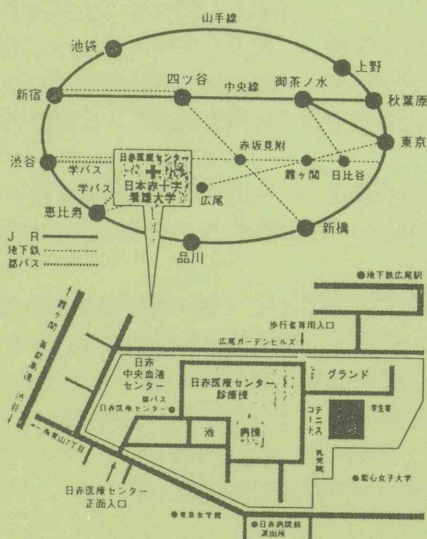
＜平成6年度総会・学術集会・懇親会の申し込みについて＞

平成6年度総会・第4回学術集会の参加申し込みはがき及び振込用紙が同封されています。総会・学術集会に参加される方は、同封の振込用紙で入金の上、申込みはがき（総会を欠席される方は、必ず委任状にご記入ください）を、6月10日必着にてお送りください。参加費は、会員 3,000円、非会員 5,000円です。

学会非会員の参加につきましては、人数に余裕のある限り受付けますので、80円切手を貼った返信用封筒を同封の上、学会事務局へお申込みください。折り返し振込用紙をお送りいたします。

懇親会に参加される方は、学術集会参加費と同じ振込用紙で、会費（5,000円）を払い込みください。なお、振込用紙の裏側にある学術集会参加費、懇親会参加費の該当欄に必ず○をつけるよう、お願いいたします。

日本赤十字看護大学案内図



- JR 池谷駅より都バス(学03)
日本赤十字医療センター行終点下車
- JR 恵比寿駅より都バス(学06)
日本赤十字医療センター行終点下車
- 地下鉄日比谷線広尾駅
六本木寄り口下車徒歩10分

◎ 広尾駅周辺、並びに日赤医療センター正門前に多少、食事のできる店がございます。日曜日は学生食堂が閉まっておりますのでご了承ください。

事務局より

1. 所属及びご自宅の住所等の変更は、文書（はがき等）で、事務局にご連絡ください。
2. 「平成3年度会費」、「平成4年度会費」、「平成5年度会費」が未納の方には、振込用紙を同封しておりますので至急納入してください。年会費の口座番号は、東京4-38594、年会費は7,000円、平成3年度分から未納の方は21,000円、平成4年度分から未納の方は14,000円です。なお、振込用紙は、おひとり1枚ご使用ください。
学術集会の振込用紙は別になっておりますので、お間違いのないようお願いいたします。
3. 学会への連絡・問い合わせは、氏名・会員番号をご記入の上、郵送でお願いします。その際には、下記の宛名も明記してください。

- | | | |
|---------|-----|-------|
| 学術集会関係 | →→→ | 企画委員会 |
| 研修・研究関係 | →→→ | 教育委員会 |
| 学会誌関係 | →→→ | 編集委員会 |
| その他 | →→→ | 事務局 |